

「今」と向き合えば

長久手市立長久手中学校

一年 菊澤 笑満

私の住んでいる長久手市では、2050年カーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）を目指すゼロカーボンシティ宣言をしています。例えば、学校では地球環境についての授業や植樹をしました。他にも、図書館や市役所での空調温度の制限を設けたり、商業施設での照明の削減をしたりして、市全体で取り組んでいます。

他にも、市が取り組める事はないかと考えたところ、思い当たる事が二つありました。

それは、学校給食の牛乳についてです。

一つめは、牛乳パックをリサイクルすることです。今、牛乳パックは捨てられています。ネットによると、牛乳パック二十六個でトイレトペーパー一個ができるそうです。つまり、毎日、一つのクラスでトイレトペーパー一個分の資源を見逃している事になります。

なぜ、リサイクルしていないのかというところ、アレルギー問題があるそうです。パックを洗うとき、牛乳が飛び散る可能性を恐れているそうです。それなら、牛乳パックをやめればよいと思います。私が三、四年生のころまで牛乳ビンでした。牛乳ビンなら、ゴミは牛乳と接しているフタだけなので、ゴミを大幅に減らすことができます。元に戻ることとは後退ではなく、前進にもなると思います。

二つめは、牛乳についてくるプラスチックストローです。一日、一人一本使うので、市の小中学校一日だけで、約7000本のストローが使われ、捨てられています。ストロー一本で、約0.5グラムのプラスチックが使われているようなので、一日に約3.5キログラムのプラスチックが無駄になっています。年間約120万本、約600キログラム消費し、二酸化炭素に換算すると約1.2トンを排出していることになりました。小さなストローを何気なしに使って捨てていたので、この数字を見て鳥肌が立ちました。ストローを使

わない事が当たり前の学校もあります。私は以前、引越しの為に今と違う学校で一年間過ごしました。その小学校の給食に出る牛乳にはストローが無く、初めは違和感がありました。しかし、いつの間にかそれが当たり前になっていました。子どもでも牛乳パックを開けやすく、ストローなしで提供できるように工夫されているメーカーもあるそうです。今からでも、ストローなしの牛乳に変えるだけで未来にプラスになるはずです。

そして、とても重要なのは、現状を理解した上での行動だと考えています。現状を知り、解決した気持ちになっては何も行動できません。だから、学校で、家庭で一つひとつ行動していけばよいと思います。例えば、学校で毎年行われる緑の羽根募金に参加したり、家庭で出た捨てる物をリサイクルに回したりできます。また、一人の小さな力ですが、作文やポスターをコンクールに応募して多くの人に呼びかける事もできます。小さな力ですが、たくさん集まれば、市全体も変えられます。こ

の作文を見て、今を考え直してくれる人がいることを願います。